

さざんか

第59号、2006年7月

4年に1度のサッカーワールドカップも終了しました。日本が一次リーグ敗退してからはヨーロッパと日本との時差の関係もありややマスコミなども盛り上がりにつけたような気もしました。

それでも午前3時とか4時に起きて観戦した方も多かったことでしょう。世界のサッカーのレベルの高さを身を持って、というわけではなくテレビ観戦でしかないのですが、間近に感じました。南米などではサッカーは貧困から這い上がりお金持ちになれるもっとも手近な手段だそうです。俗に言うハングリー精神がわがニッポン国とは違うのかもしれませんが、そういう意味ではいつまで経ってもサッカーの世界では彼らには適わないのではないかとやや悲観的になったりもします。何しろ小学生に株の仕組みとか、如何に汗をかかずに金持ちになれるかを教えようとしている国なのですから。

それはさておき、考えもしないこのたびの大雨で被害を被られた方もいらっしゃると思います。紙上ながら心からお見舞い申し上げます。まったく、とんでもない雨でしたね。8.6水害の時を思い出しました。あの水害は100年に一回くらいの水害だとか云われてましたので、もう生きているうちはあんな大雨にであうことはないだろうと思ってました。我々の予想以上に地球環境の変化は加速がついているのかも知れません。自然環境といいヒトの世の中といい、これまでの経験の延長線上では予測がつかない混沌とした時代になってきているのでしょうか。

県立北薩病院の基本方針

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
 - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
 - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
 - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
-
-

==== 年老いて因縁がやっと分かる ==== 宮園辰夫

人は生まれ出る場所や環境を自分で選んで生まれてくるのではなく、又育っていく環境も、自分の意思と云うよりも、半ば強制的に与へられている中で、取捨選択しながら、生きていけると言へます。自分の心掛けが環境を作り出していると云ふことも、事実ですが、その心掛け自体が、もともと環境に影響され乍ら、作られてきたと言えるのではないのでしょうか。心掛けと環境とは、因と縁の関係でいえば、どちらが後先と云ふわけでなく、片方が因となり、一方が縁となり乍ら、複雑に絡み合い乍ら、それが受け継がれて、人間の因縁となっているのです。だからこそ、因縁というものが人間の幸、不幸の鍵を握っていると云ふことといえるのです。

その因縁も又目に見える現象の因縁と、目に見えない世界の因縁が複雑に絡み合っているのですから、これを解くのは容易なことではありません。現象世界の因縁だけを解こうとしても、もう一方の世界の因縁をそのままでは、いずれ又、元に戻ってしまうし、逆もまた同じです。環境だけを変えても駄目と言えます。心掛けだけでも駄目です。両方ともなって、はじめて「変わる」と云うことが可能となるようです。形と心、両面から不幸の原因を解決し、不幸を幸せに変えなければなりません。それが、結局祭祀と供養なんぞでせう。病気になってみてはじめて何の因縁だらうと思います。皆さんはそんなことはないでせうが、供養とか仏様とか、年を取った証拠ですね。若い時は神、仏なんて考へたことなかったのですが、幸福は一方より来ますが、不幸は八方より来ます。そして因縁は……。

==== 短歌、狂歌、俳句 ====

宮園辰夫

女房の膝の痛み見て吾が膝も痛む様な気がして

一万余の鶴去りて鶴の香残る田に精を出す荒崎の人

きんかん

やんめあが
病氣上がい五合も飲んで医者い叱れっ

品のつくち高こ止った婆も孫にや手を焼っ

西屋敷喜美子

年金の暮らし静かに 新茶飲む

七十と なりし絵手紙 濃紫陽花
こあじさい

二題

貴島高則

その1 昔ばなし

昔ある処に男がいました。何時か人に笑われる事をしでかすことがあると云われていました。ある日、ご馳走になりました。その上に胡麻を炒り振りかけてありました。その味が忘れられず、胡麻を作ることにしました。考えてみますと胡麻を炒らなければなりません。それで胡麻を炒ってから、蒔けばきっとあの良い香りがする美味しい胡麻が出来ると思い種子を炒ってから蒔きました。一週間、二週間待っても芽が出ません。1ヶ月、2ヶ月、1年、2年待っても芽が出ません。然しその男は胡麻よ早く芽を出せと、待っているとのことです。

その2 方語

鹿児島語には日本古来の言葉があり、古事記や日本書記と万葉集に出て来る言葉が沢山あり、まことに、上品で、敬語が多い。礼儀正しい言葉で決していやらしい方言ではない。「ノリト」はやまと言葉で古語である。鹿児島は古語が多い。国語の時間に「あたらしき人のうせつるかも」と、ある新しい人が死んだと云う意味でなく、惜しい人が亡くなったものだと云うことである。これは方言の「あたらしか」と云うこと、日本建国と共に生

まれた鹿児島語。古代は鹿児島語は標準語であったのかも知れません。

風

時吉政江

風は南に進み循環して北に向う。絶えず循環を繰り返しながら風はその循環に帰ってゆく。私はネエたちが冬の寒い晴れた日に、コンクリートの上で木の葉がくるくと回っているのを追いかけて楽しそうにして遊んでるのを見て、ひとりぽつんと微笑みながら、ひととき満ち足りることがある。働けないわが身を忘れて、ネコもまた私が外で出ているのが嬉しいのか、車椅子のひざにのって喜んでゴロゴロのどがなっている。こうした時間がかれこれ何年もつづいて、心からネコの友となった。

一度パチンコ屋を見てもうと思っ行って行ってみました。1万円札をきかいに入れてカードが出てきた。私のカードで何時間あそべるのだろう。主人が30分か1時間だろうネ。車イスでパチンコ屋をくるりくるりと回る。ケースが二段、三段となって、花のふたが立ててある人もいれば、場所を変える人もいる。骨折って働いてもっとほしい銭取りではあるだろうが、私はパチンコ屋から主人と帰ろうとするところに、店員さんが追いかけて走ってきて、車イスでもできますので私がおして回ります、とサービスの言葉でした。私は、今でも年金暮らしで銭から追いかけてられているのに、1万円とは負けてすべてむなしく、風を追うようなものではないだろうかと思い、人は骨折って働いて、顔がニコニコしている人はコンピュータに勝ったとニコニコ顔をしているようだけど、負けた銭はすべて空しく風を追いかけて、無言のまま車に乗って走り去っていく。明日は、きっと今日の分まで取り戻そうと思って、夜の星空も美しきものを思わないまま、人生を負けた痛みと愚かさ、と愚行とで風の循環のように繰り返すのだろうか。ついでに妻子にあたりちらして銭の亡者になるだろう。

しかし県の職員さんはたった一人の患者さんに喜んでもらって骨折って働いたかいがあったと、自分の「心」医師になってよかったと喜びに満ち溢れるのではないのでしょうか。医師として、県の職員として、知恵と知識と熟練した働きがいある人として、喜びがあるのではないだろうか。ただ銀を愛するものは銀に満ち足りることなく、富を愛する者は収入に（満ち足りることがない）。これもまたむなしいものではないのでしょうか。県の職員としてスタッフたちは眠れぬ夜も多いだろう。丈夫な人には医者が必要ではないが病気の人には必要だからです。（旧）院長の長年歩いてこられた北薩病院を忘れないでほしいものです。県立北薩病院のスタッフの寛大な魂は自分も肥え、（他の者に）惜しみなく水を注ぐ者は、自分もまた惜しみなく水を注がれる。人間は風。ちがうおもしろさや愚かさが人間でしょう。（泥中の蓮）どろの中からはえて美しい花をさかせるように、けがれ環境にあっても、それにそまないで心や行ないの美しい人とは、県の職員さんのことです。

タバコの害については、もう十分これでもか、これでもかというほどに、マスコミはじめあらゆるメディアで喧伝され、また実際においても禁煙空間がじわじわと確実に増えていき、ふと気がつくと周りは禁煙の空気に満ち満ちており、いまや喫煙者は病気（中毒者）とまで呼ばれるようになった。ご存知だと思うが、依存性からいうとはるかにアルコールの方が強いのである。まだ居酒屋廃止運動とかスナック閉店運動とかはまだ新聞紙上を賑わせそうにない。

だが、ここでよく考えてみよう。人生を破壊する大きな要素は、ギャンブル、異性、アルコール、お金であることに気がつく。アル中の男性が妻や子供に暴力を振るったりする話はよく聞くし、中毒とまでは言わなくても酒のために家庭を壊した話も枚挙に暇がない。パチンコから競馬に到るまで、ギャンブルで借金を背負い、高利貸し（サラ金から闇金まで）に手を出して多重債務者になり自己破産したり家族を不幸に巻き込んだ話もよく聞く話である。また、結婚した人の今や4組に1組くらいが離婚する時代である。その主要な原因の一つは異性関係のトラブルである（主には夫の浮気かな）。

お金の話でいうと、上は政治家から下は木っ端役人まで、汚職事件はほぼ定期的が発生していると言ってもいいだろう。あるいは汚職とは言わなくても合法的であるにしても、一部の人間がとて得をしている（なになにファンドに1千万円投資すると2千5百万円になるとか・・・）かと思うと、お人よしあるいは認知症のお年寄りがリフォーム詐欺でなけなしの年金までせり取られたりする。

このように、人生を左右する沢山の要素（アルコール、ギャンブル、異性、お金など）があるにも関わらず、どれもタバコほどには悪者扱いされていないのは何故なのだろうか。タバコが原因で家庭崩壊した話や喫煙で人生を棒に振った人の話は聞いたことがない。何故タバコに関してのみ現在のような禁煙ファシズム状態となっているのだろうか。

人に迷惑をかけないためには、他人の前で吸わなければ済むことである。ちゃんと喫煙空間さえ作ってやればそれで問題は解決する。個人の健康のことですと、まさに今の時代、人のことは放って置いてくれ！と言いたくなる。美食でコレステロールを溜め込んで心臓の血管をボロボロにしたり、甘いものを食べ過ぎて糖尿病になったり、食欲に任せてデブになりそれらが病気の元になるとどこが違うというのか。肉食禁止やスイーツ禁止をしないのに、何故、煙草のみは廃絶の方向で持っていこうとするのだろうか。そこまで喫煙者をいじめる必要があるのか。

勿論、そうなることを理解した上であるが、煙草を吸って早死にする人生があってもいいのではないか。選択肢は与えるべきである。全く選択肢を与えないのはまさに禁煙ファシズムである。しかし、まだ幼い子供たちの喫煙予防はもっと徹底すべきだと思う。当たり前前だ。本気でそう思うのなら誰でもフリーパスで煙草が買える自動販売機をすべてなくしたら良い。極端には煙草会社を廃絶したらよいだろう。マールボローなどの米国产煙草の輸入も当然中止だ。(米国人には吸うなと警告する一方で、日本に輸出するのはまったくけしからん。)

お店で買うときには身分証の提示を法制化して未成年には売らなければ良い。子供のうちから禁煙教育を徹底すれば、彼らは大人になって煙草を吸うことはなくなるだろう。そうすれば、今の大人の喫煙者が順次年を取って死んでいくから、数十年で反喫煙者の望む完璧な禁煙社会は出来上がるのである。それが、一番確実な禁煙社会の実現への近道である。今の、大人、とくに中年～老年の大人の喫煙者をいじめて何が楽しいのであろうか。どうしてこうも他人の健康に口出しするのだろうか。公衆の場所で悪態をつく若者には面と向って注意もできないくせに……。

けっして喫煙のススメではないし、吸わないほうが良いに決まっていると思っている。それでも今の「喫煙者憎し」「喫煙者人でなし」「喫煙者は病気」だというばかりの一方的なファシズム的な風潮は憂わざるを得ない。煙草は販売しながら、禁煙運動を強引に勧める国の姿勢。街で煙草を吸っている中学生や高校生を見ても誰も注意もしない。しかし一方では、物言わぬ喫煙者に対しては社会全体で段々とその居場所を少なくしている。病院も一律全館禁煙にするのではなく、末期患者の「最後の一服」のための場所は確保すべきであろう。

国家主導のもと、国民一斉に唱えた「ぜいたくは敵だ」「パーマネントはやめましょう」などの戦前の空気と似たような雰囲気を感じてちょっと気持ちが悪い。摂生して、健康で平穩に過ごす人生も人生であるし、また不健康であり少し早死にしてもみずから望んだのであればそれもまた人生である。我々の人生にはそれぞれの選択肢があり、それぞれの生き方があるところが人生の面白いところであろうと思う。自由に生きることが可能な社会を望むゆえにファシズムのごとき節操のない禁煙運動には断固反対したいと思う。

数かぞえ唄

無花果（いちじく）
山椒（さんしょ）に
牛蒡（ごぼう）に
七草（ななくさ）
胡瓜（きゅうり）に

「いちじく人参」

人参（にんじん）
椎茸（しいたけ）
無患子（むくろじゆ）
初茸（はつたけ）
冬瓜（とうがん）

編集後記

夏がやってきました。子供の時は、夏は特別な季節だったような気がします。何といっても夏休みがすべてでしたね。「夏休みの友」、ラジオ体操。セミ取り、夏祭り、プール。海水浴、スイカ割り、林間学校、花火。毎日がわくわくする日々だった（ような気がします。もう本当のところは忘れてしまっていますから）。大人の夏休みは本当に「休む」だけの夏になりそうですが、それもまたよし。夏を楽しみましょう。 高橋